

近鉄大和高田駅・JR高田駅周辺地区まちづくり基本構想

■ 大和高田市のまちづくりについて

【まちづくりの方向性】

中心市街地に行行政、医療・福祉、商業機能が集約している地域性を活かしながら、市全体の利便性を向上させ、地域の活性化につなげる。

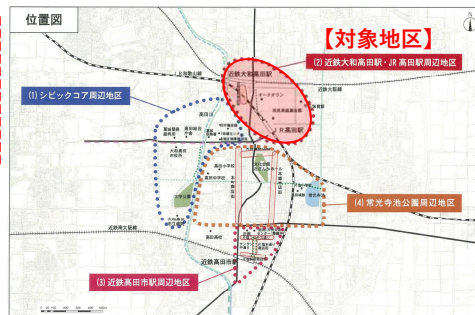
(2) 近鉄大和高田駅・JR高田駅周辺地区のまちづくり

【まちづくりのコンセプト】

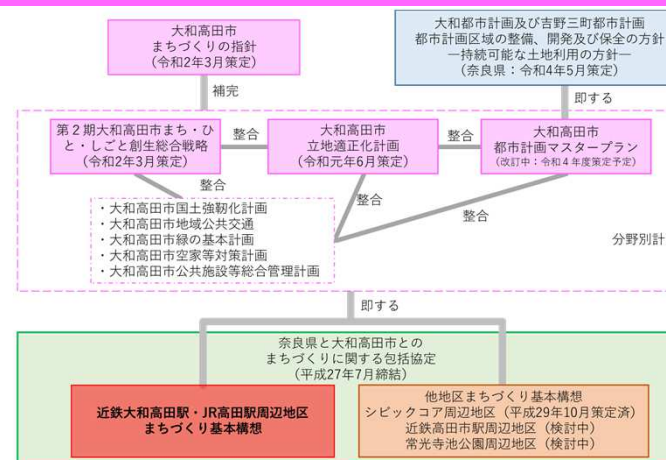
- 県中西部地域の拠点駅にふさわしい駅前空間づくり
- 市の中心拠点として活気にぎわいのある魅力的な周辺市街地づくり

【検討予定の基礎となる取組】

- 公有地を活用した駅前の再構築
- 既存商店街の活性化
- 近鉄大和高田駅とJR高田駅間のアクセスの向上



■ 基本構想の位置づけ



近鉄大和高田駅・JR高田駅周辺地区まちづくり基本構想のストーリー（案）

対象地区の現状整理

- 比較的にまとまった公共用地や公共施設があるが、十分に利用されていない
- 空洞化が進むエリアと新規住民を招くエリアが存在する
- 近鉄大和高田駅・JR高田駅周辺には商店街があるが、その利用は多くない
- 鉄道やバスなど多様な交通手段はあるが、地区の西側に偏在し、東側は限定されている
- 駅や対象地区へは、徒歩や自転車・バイクの利用が比較的多く、公共交通の利用が少ない
- 市民は、対象地区の利用促進に、商業施設や医療・福祉施設を求めている
- 公共施設、駅前広場や歴史・文化的資産などの利用が進まず、賑わいが少ない
- 駅からの公共交通の有機的なネットワークが形成できていない
- さざんかホールには市外から車で来館する者が中心だが、鉄道利用者は2割程いる
- 近鉄大和高田駅とJR高田駅との乗換は全体の1割（ただし、高校生は大人の3倍利用する）
- 鉄道の待ち時間が解消されると、鉄道利用が増えると考えている者が一定数いる
- 本市の歴史的展開に沿ってまちづくりが進み、それぞれのエリアを特色付けている
- 両駅間は、上下移動や複雑な交差点などがあり、移動しにくい空間となっている
- 駅へのアクセスは、歩行者の安全性が確保されていない
- 駅の利用は、近鉄大和高田駅が多いが、市内の高校に通う生徒は、どちらも利用する
- 駅へのアクセスは、駅へ向かう道路が渋滞しやすい状況にある
- 近鉄大和高田駅のアンダーパスは、大雨時に冠水しやすい
- 市民は、イメージの変化が利用促進につながると考えている
- にぎわい・活気と便利さを指標にして、駅及び駅周辺のイメージが形成されている
- 東側には落ち着いた住宅地があるが、対象地区の人口は総じて減少傾向にある

まちづくりのコンセプト

都市機能や地域資源が集積し、県中西部地域の拠点駅がある地区の特性を活かし、公民が連携して持続可能なエリア価値を創出する

将来像：

県中西部地域の拠点として、広域の住民が立ち寄りたくなる都市空間の形成
住みたい地区として選ばれ、住み続けられる地区の形成
対象地区周辺へもアクセスしたくなるウォーカブルな交通環境の形成

課 題

課題1 都市機能の低下

課題2 多様な地域資源の活用

課題3 歩行環境への配慮

課題4 道路環境への配慮

課題5 エリア価値の低下

方向性（→ 基本方針へ）

方向性1

県中西部の拠点にふさわしい都市空間の再構築

方向性2

持続可能な居住環境の形成

方向性3

時代に即した交通環境の形成

方向性4

公と民との積極的な連携